

令和2年度 神村学園専修学校

学校評価委員会 議事録

令和3年3月13日（土）

神村学園専修学校

1. 開会のあいさつ

神村学園専修学校 副校長 松ヶ野 透 よりごあいさつ

出席のお礼、日頃の実習等受け入れのお礼。

国家試験受験の報告と、合格発表日の報告。

来年度入学生の募集状況報告。

評価委員の先生方、日ごろより本校教育推進におきましては、多大なるご協力をいただき、ありがとうございます。また本日は、大変お忙しい中、本会にご出席賜り、感謝申し上げます。

本校学生の実習では、世の中が大変な状況の中、お引き受けいただき、大変勉強になっております。卒業した学生たちも、2月には国家試験を受験し、今月（3月）末には発表もごございます。良い結果を出してくれるものと思っています。来年度の入学生も順調に集まり、これからも良い教育を実施してまいります。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2. 委員会の趣旨・目的等について

神村学園専修学校 西山副校長 より

神村学園専修学校の教育の質の保証と向上、学校運営の改善、信頼される開かれた学校づくりを目指し、外部評価委員として先生方のご助言・ご指導を賜りたく存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 報告事項

各学科より募集状況・国家試験合格者数・就職状況等を報告

（西山副校長）自己点検・自己評価について報告。

学校の教育目標に対する、職員の自己評価について1項目ずつ報告

やや不満の項目については、学内でしっかりと分析し、改善の方策を立てていく。

（職員の能力開発のための研修、適切な施設・設備について改善を図る）

①理学療法学科（田川リハビリテーション学科長）

- ・平成26年度～令和2年度までの入学者数、卒業者数、国家試験、就職者数、進学者数の報告（別紙）
- ・就職者数の報告と未定者の理由について（3月になってからの活動のため）
- ・新型コロナウイルスの影響は大きく、特に実習に影響大。病院での実習がかなり困難であったり、急な変更を余儀なくされた。
- ・1年生、2年生ともに同様に影響を受け、リモート授業で対応することも多かった。
- ・リモート対応であると、個別での対応に限界を感じる部分もあった。
- ・知識的な部分と、実際の臨床とのつながりを理解することが難しかった。

②作業療学科（黒木作業療学科長）

- ・平成26年度～令和2年度までの入学者数、卒業者数、国家試験、就職者数、進学者数の報告（別紙）
- ・就職未定者の理由（国家試験の結果を待っての活動のため）
- ・新型コロナウイルスの影響は、勉学はもちろん、クラス内のまとまり、コミュニケーションにも関係した。
- ・放課後での基礎科目の復習時間も短縮もしくは中止せざるをえなかった

③看護学科（植屋看護学科長）

- ・平成26年度～令和2年度までの入学者数、卒業者数、国家試験、就職者数、進学者数の報告（別紙）
- ・就職未定者の理由（国家試験の結果を待ち、面接受験予定）
- ・国家試験合格率が低迷していることから、対策の見直しや強化を図っている
- ・新型コロナウイルスの影響による、臨床現場での経験数の少なさは、看護師国家試験にも影響し、具体的なイメージの定着が困難な学生もあった。
- ・自分が理解していることを、他者に説明することの難しさなど課題
- ・知識の定着という観点では、オンラインではかなり困難であったが、方法を具体的に
見直し、糸口をつかめてきている。

④こども学科（下木こども学科長）

- ・学科の目標を具体的に設定し、それに対して取り組んできた。
- ・次年度は、姉妹校からが圧倒的であった入学生が、他高等学校からも6名の入学生がある
- ・長期高度人材育成コースでの入学者の紹介
- ・新型コロナウイルスの影響が、実習にも影響した。
- ・できる限り、対面授業ができるよう感染予防対策を徹底したが、それでも困難なことが多かった。

⑤日本語学科（大山日本語学科長）

- ・入学学生数の減少の報告（コロナ禍による入国制限）。
- ・入管の許可次第で大きく変動する。
- ・JLPT（日本語能力試験）の説明
専門学校 → N2 大学 → N1
- ・コロナの影響は大きかった。

<質疑応答>

(向井委員)

自己点検評価は、神村学園の職員が行っているものか？

昨年と比較してどうか？

(西山副校長)

昨年よりも2と回答する項目が増えている。委員の先生方のご意見やご助言をいただき、学園として分析し、対策を講じたい。

(向井委員)

自分たちの病院でも行っており、部署ごとに違いを見出し、対応している。

神村学園さんはよくできているという印象だが、次年度に向けて、評価の低い項目の改善を期待したい。

(宮内委員)

コロナでオープンキャンパス等困難であったと思うが、比較的理学療法の募集がうまくいったのは何か要因があるか？

(渡)

高等学校を積極的に訪問し、ある程度進路の決まりかけている生徒に対し、高校の進路指導教諭からご紹介いただけたのが大きいという印象である。

(宮内委員)

オンライン授業はどうだったのか？

(田川リハビリテーション学科長)

学生個人個人の能力的な差があったと思われる。個別指導の必要性もあわせて検討したい。

(西山副校長)

学校としては基本的には対面授業を基本としている。そのため、時差登校や出校クラスの調整、徹底した感染症予防対策を講じ、可能な範囲内で授業を行った。

(宮内委員)

日本語学科の入管の状況はどうか？

(大山委員)

入管の審査は厳しいが、出願としてはいくらか数は出てきている。入学生の減少は依然厳しい状況ではあるが、留学生自体はなくなるものではないと考えている。

(島谷委員)

当園では、神村学園に勤務されている職員さんの子供さんをお預かりしており、他県に行った方との接触者となった場合、お子さんの登園をしばらく自粛いただいている。学生さんの安全を考えておられるのは当然ですが、学園の職員やその家族の対応など、学園の明確な基準を決めていただければ、職員さんも家族も、家族が通う幼稚園等も安心できるのではないのでしょうか？

(西山副校長)

ご指摘いただきました点について、学園としてしっかりと基準を定め、取り組んでまいります。

4. 来年度への目標

①理学療法学科（田川リハビリテーション学科長）

- ・国家試験の全員合格を目指す
- ・神村学園を選んでいただけるよう、入口の整備（オープンキャンパスなどの工夫）

②作業療法学科（黒木作業療法学科長）

- ・理学同様、出口（国家試験の合格）を徹底して整備したい
- ・基礎学力向上のための補講、授業の工夫を進める
- ・電子書籍を導入することで、感染症対策の一環として接触のない環境を整備する

③看護学科（植屋看護学科長）

- ・国家試験合格率向上のための取り組みを工夫する。
- ・小集団での学習など、具体的に導入し、高めていく
- ・カリキュラムの改正に伴い、現状の課題をしっかりと抽出し、この改正をうまく活用していけるよう工夫する

④こども学科（下木こども学科長）

- ・社会性・コミュニケーション能力の向上をまずは徹底して目指す
- ・コロナの影響をみながら、附属幼稚園児との実際場面での遊びを通じた経験を組み込んでいきたい
- ・離職率について、1年余りで離職する卒業生もおり、現場の先生方と協力し連携しながら取り組んでいきたい。

⑤日本語学科（大山日本語学科長）

- ・まずは、安定した学生募集により入学生を確保したい。
- ・県の介護福祉士のための奨学金制度を利用する留学生の日本語教育の段階から奨学金対象となることから、神村学園専修学校日本語学科を利用していただくよう工夫する。

<質疑応答>

(向井委員)

看護のカリキュラム改正に伴い、AIに負けない人材作りなど考えられているか？

(植屋看護学科長)

免許が仕事をするのではなく、人が仕事をするという、神村学園の理念である人柄教育に力を入れている。

(山下委員)

自分たちのところも人材育成という部分は大きなテーマである。神村学園の先生方の取り組みを見習い、取り入れていきたい。

(勘場委員)

留学生が入国できないのは非常に残念だが、入国が可能になったら、いつでも受け入れるつもりである。その時まで、変わらず頑張っていたきたい。

(島谷委員)

国家試験合格 100%を掲げている他の学校に入学した知り合いの子どもが、受かる能力がないということで進級・受験できず、6年かかって結局退学した。

神村学園は人を育てるという理念や話、目標を聞き、非常に安心した。

人材不足でありながら、現場の職場側の問題も多々あるのも事実である。学校との連携を図りながら、ともに改善できるよう協力していきたい。

また、社会は？現場は？といった職場環境を、事前に学生に指導いただければ、1年以内の離職も防げると思われます。

(宮内委員)

教員の能力開発のための研修に関する項目が低い評価だったが、ここが上がれば学生さんへの還元が図られ、結果国家試験の合格率も向上できるのではないかと思います。来年度は上がることを期待します。

5. 閉会のあいさつ

(松ヶ野副校長)

教育の質の向上と補償など、委員の先生方の助言をいただき取り組んでまいります。

本日は誠にありがとうございました。

閉会